

A 類 国際教育選修 2 年生

プログラムが始まった当初は、自分の英語力が十分でないことや、他の日本人の参加できる日程が少ないことなどから、うまくアメリカの学生とコミュニケーションできるのかという不安がありました。しかし、この不安はフィールドワークなどを通して、同じものを見て、食べて、一緒に笑い合っているうちに次第になくなっていきました。

英語圏の学生と過ごすという経験はしたことがなかったので戸惑うこともありましたが、彼らの優しさにいつも助けられました。同じグループの学生とは、一週間で築いた友情とは思えないほどの強い絆を残すことが出来ました。言葉がうまく伝わらない時も、頑張って理解しようとしてくれる優しさに気を使わないでいられたのも、同年代の彼らだったからこそだと思います。そうした優しさに囲まれていたおかげで、私は英語を抵抗なく使うことができ、徐々に理解できる・使える英語が増えてくる喜びをかみしめていました。

また、教育に対する関心も今まで以上に上がりました。様々な小学校や中学校に行くことで、机上で学ぶのではなく、子どもたちと触れ合うことで先生とは何かを考えさせられました。小学校を訪問した時に、英語の授業をしたことがとても印象的です。私たちの班では、英語が分かる楽しみを子どもたちに伝えたいという目的をもって、この活動に挑みました。班のメンバーと協力して、子どもと異文化と英語を繋いだという経験はこれからの大学生活、教育に関わっていく上でとても大きな財産になりました。

アメリカの学生と講義が終わるごとに行うディスカッションやプレゼンテーションは、自分の考えを整理するうえでとても良い活動でした。教育ではない分野の学生が、積極的に発言をしてとても感心したと同時に、言いたいことがうまく伝えられない歯がゆさも味わいました。そのおかげでこれからの語学に対する勉強のモチベーションも上がりました。

この一週間を通して、アメリカの学生と真の国際交流ができたと思っています。また、学芸大生どうしの他学科、他学年との幅広い交流もできました。これから先も、この絆を大切にして将来へと繋げていきたいと思っています。(一部省略)